

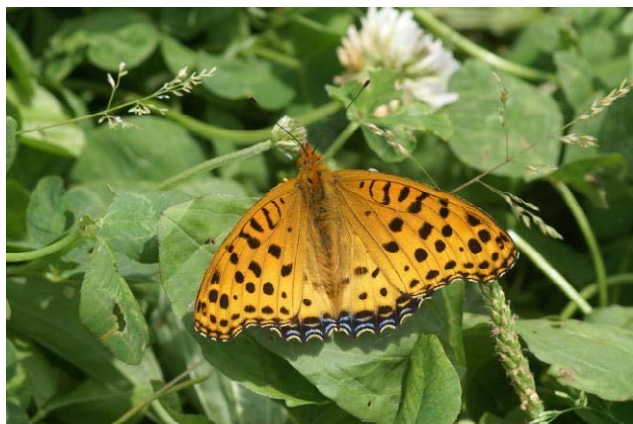
# 牛久：学校周辺に見る自然

第12号 牛久二小，牛久二中，牛久自然観察の森

2010年5月30日発行

＜今年も現れた、南方系のチョウ＞

## ① ツマグロヒョウモン(タテハチョウ科)



↑ ツマグロヒョウモン・おす(5/21 牛久二中)

↑ 産卵のためかパンジーの周りをとぶメス(5/27牛久二小)

ももとは南方系のチョウですが、幼虫がパンジーやビオラなどスミレ類の葉を食べるので、園芸植物にまぎれて広がったのではないかと考えられています。それでも以前は、このようなチョウがまぎれこんでも冬の寒さに耐えることができず死んでしまったと思われます。ぐんぐんと北へと分布を広げているのは、地球温暖化のためなのか日本の平均気温も上昇していることが原因の一つなのではないかと考えています。また、このツマグロヒョウモンのメスは、毒チョウのカバマダラによく似ています。カバマダラの幼虫はトウワタという毒草を食べて育ちますが、チョウになっても毒素が体内に残っていて、鳥などが食べると毒に苦しみ二度と食べようとしなくなるそうです。ツマグロヒョウモンのメスは、このカバマダラに似るぎたい(擬態といいます)ことで鳥などの天敵に食べられるのを防いでいるのだといわれています。ただし、カバマダラは北上しておらず、関東では擬態の効果はないのでしょうけれど。皆さんの身近でも、擬態の例は見られると思いますよ。見つけたら教えて下さいね。

## ② ナガサキアゲハ(アゲハチョウ科)



↑ 校庭にまかれた水を吸いに来たオス(09/5/27牛久二小)

↑ タニウツギの蜜を吸うメス(09/5/13牛久自然観察の森)

こちらにも北上を続けており、他の黒いアゲハとは後うしろばね翅に尾状突起と呼ばれる突き出た部分がないことで区別できます。昨年は自然観察の森で雌雄が飛び交っているのを見ましたので、繁殖の可能性は高いと思います。写真は昨年のもですが、今年も多く見かけています。【理科支援員・宮内】